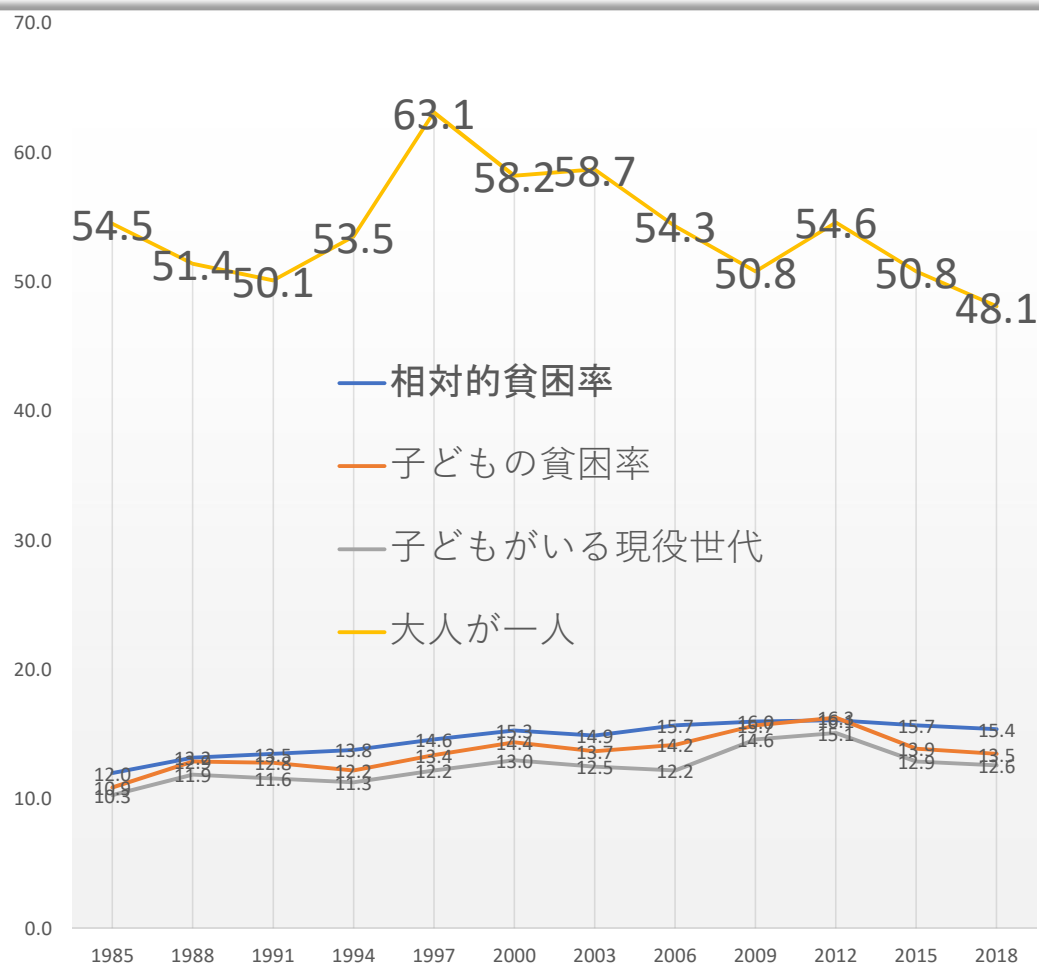


コロナ禍以前からの貧困の実態

資料 1

—ひとり親の生活の脆弱性が顕著—

図 1：相対的貧困率



「国民生活基礎調査」より
 稼働所得 母子世帯 231.1万円
 高齢者以外の世帯 561.3万円
 貯蓄がない 母子世帯 31.8% 全世帯 13.4%
 生活意識（苦しい・やや苦しい）
 母子世帯 86.7% 全世帯 54.4%

厚生労働省「2016年全国ひとり親世帯等実態調査」でみる母子世帯の状況

- 働いている 80.6%
- 雇用形態 正規労働 44.4%
非正規労働 43.8%
- 母親自身の年間収入 243万円 うち就労収入200万円
- 預貯金額が50万円未満 39.7%

図2 過去1年間で
お金がなくて食料が買えなかった経験

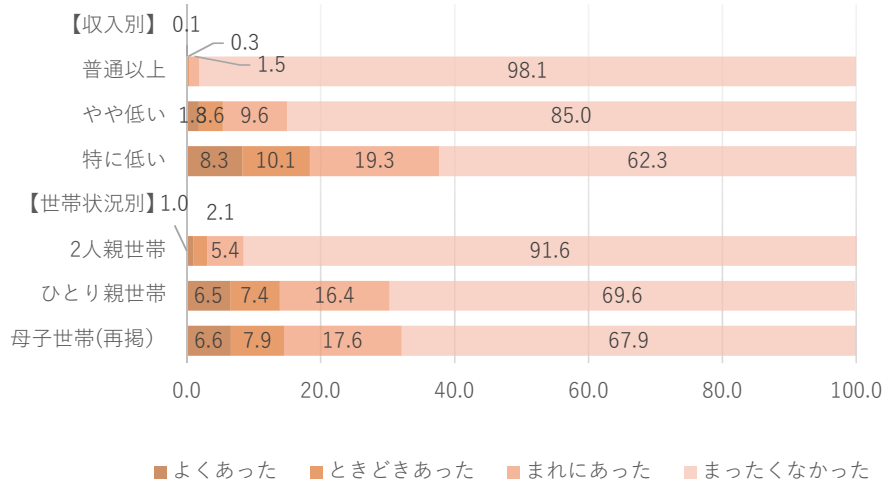


図4 【コロナ禍以降】 お金が足りなくて必要な食料や衣服を変えないことの変化

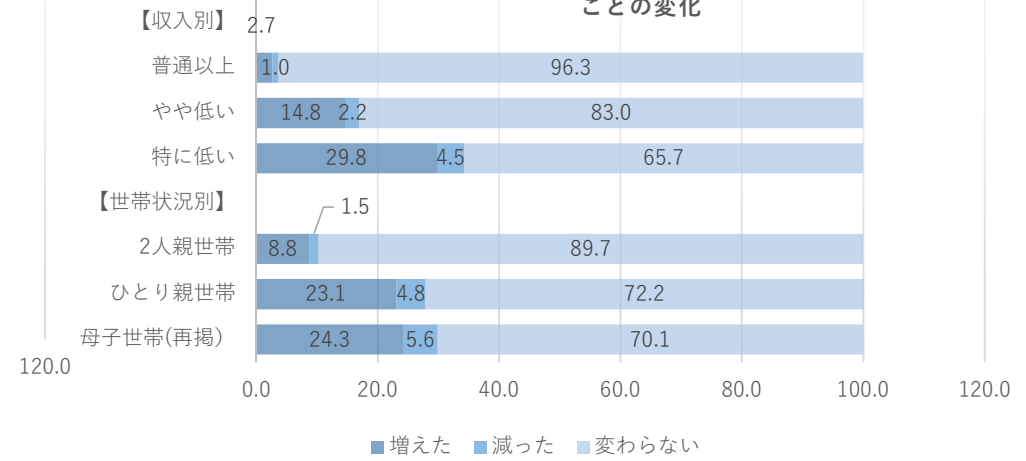


図3 過去1年間で
家族が必要とする衣料が買えなかった経験

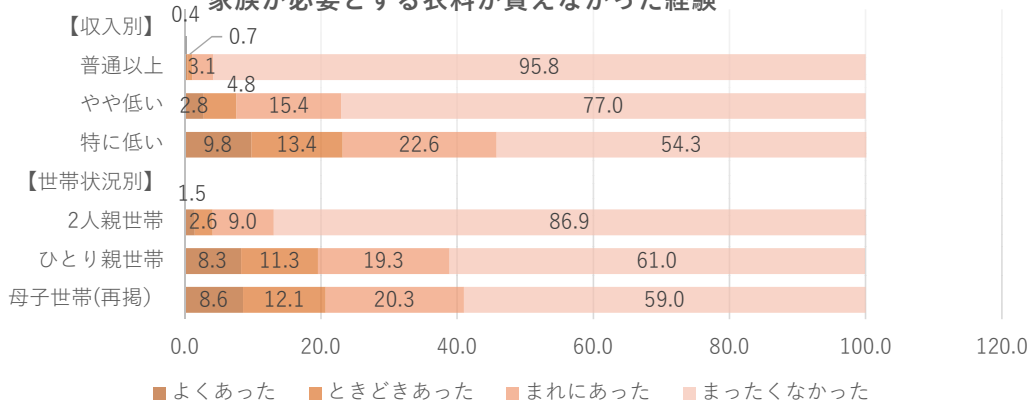
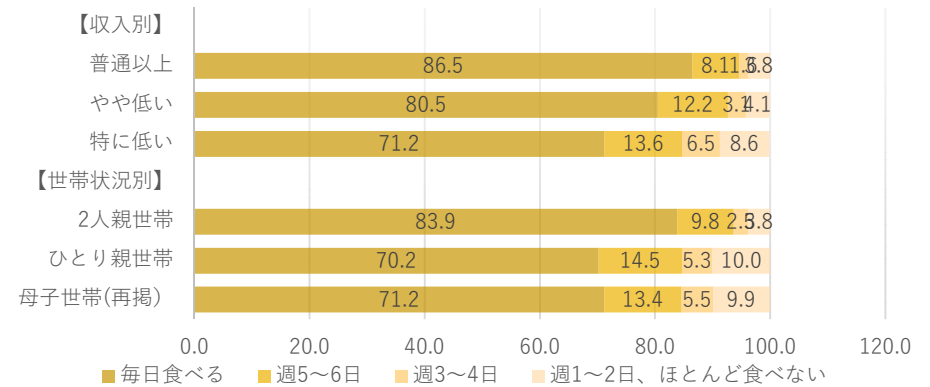


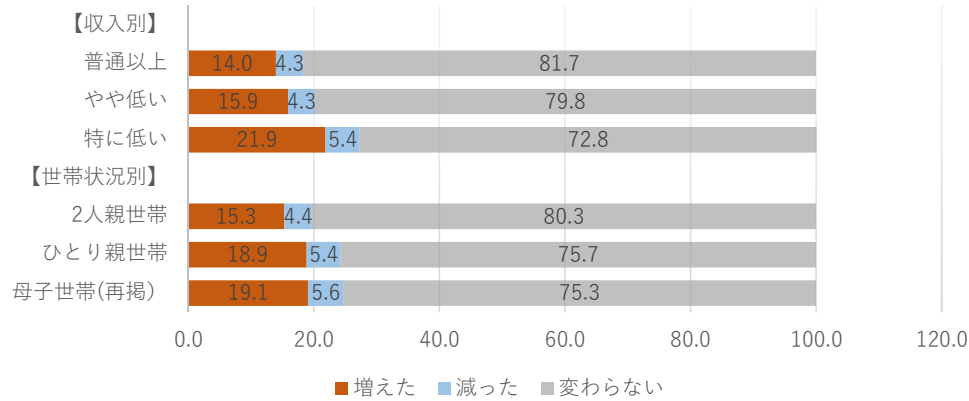
図5 朝食の状況(子どもの回答)



●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」(表出なし)が生じている割合が高い。同様に、**コロナ禍以降**も買えないことが増えている割合が高い。

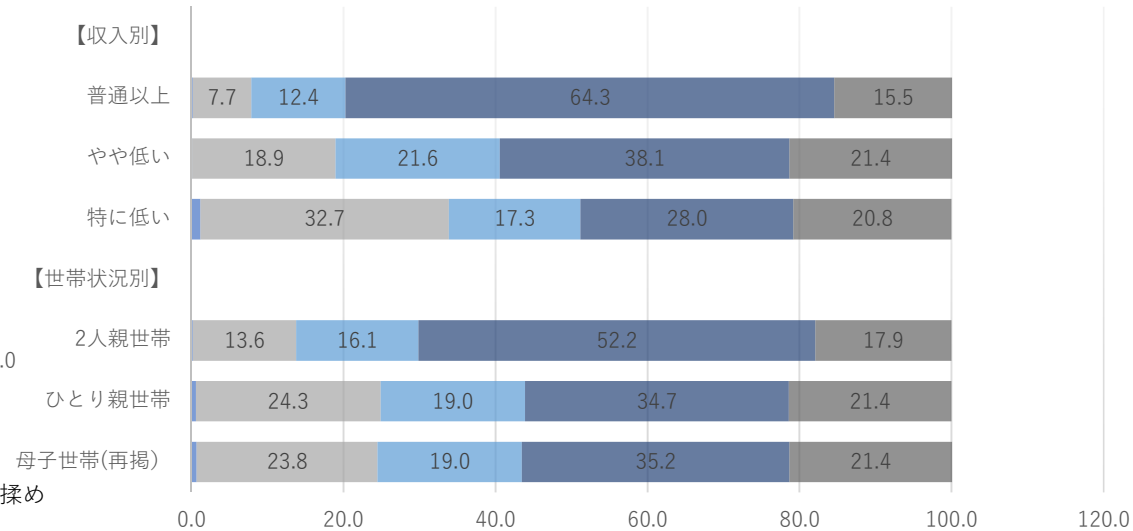
●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「朝食」について「毎日食べる」と回答した割合が低い。

図6 【コロナ禍以降】家庭内で言い争いや揉めごと



●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、**コロナ禍以降**に、家庭内での言い争いや揉め事が増えている割合が高い。

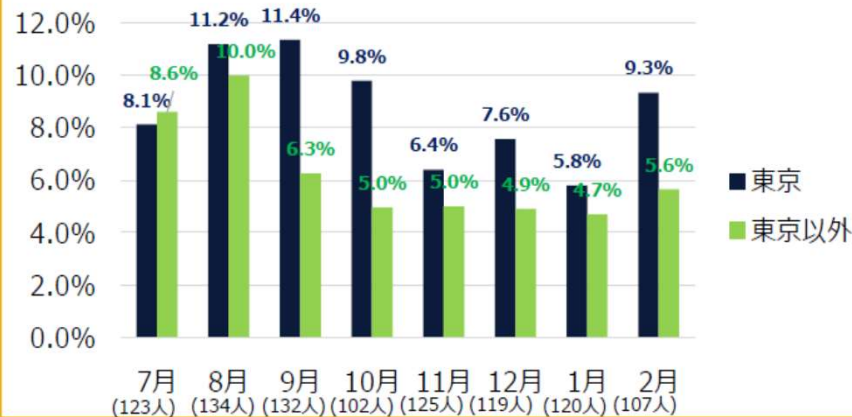
図8 子どもが希望する進路（子ども（中学生）の回答）



■ 中学まで ■ 高校まで ■ 短大・専門学校等 ■ 大学またはそれ以上 ■ まだわからない

●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子供が将来どの段階まで進学するかの希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。
 ●子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。

図7 体重が減った小学生の割合（月別推移）



シングルマザー調査プロジェクト(2021)「コロナ禍におけるひとり親世帯の子どもの状況」

内閣府「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」2021年12月より

「収入別」の表記について、便宜上、報告書の表記を以下のように置き換えた。
 等価世帯収入の中央値以上…「普通以上」
 中央値の2分の1以上中央値未満…「やや低い」
 中央値の2分の1未満(貧困線より下)…「特に低い」